



地域振興は人づくりから— 地方に根ざし、世界にはばたく新潟県立大学

Uiversity of N iigata P refecture

新潟県立大学広報誌

2011.9 No. 5

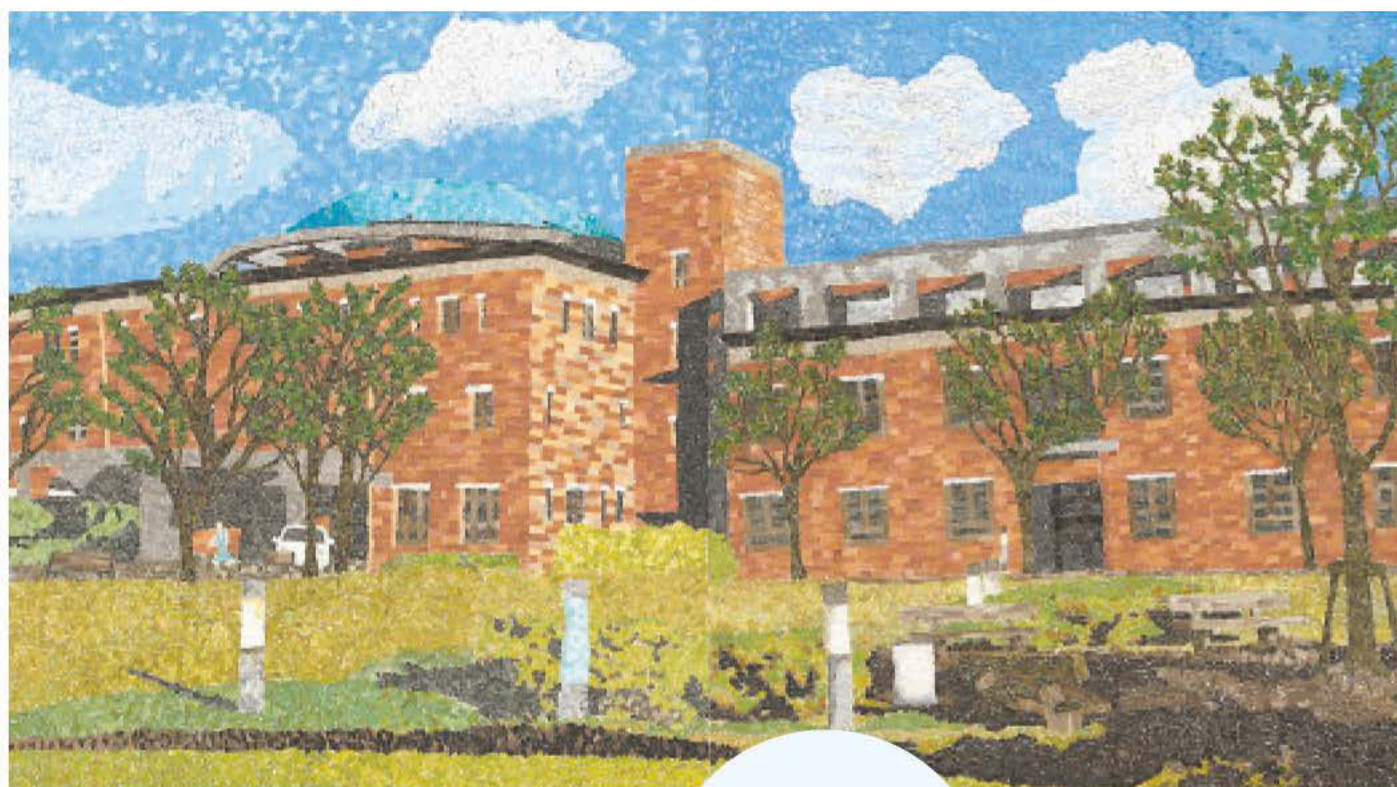
新潟県立大学ニュース

来て
見
て
海老ヶ瀬!

Mite

Kite

Ebigase



CONTENTS

授業・実習の紹介	2
県大生の1日&1週間	7
活動報告	12
知ってビックリ大学生活	16
INFOMATION	18

■新潟県立大学の基本理念

○国際性の涵養

東アジアをはじめとする世界の
人々との社会的・文化的交流を
促進し、グローバルな視点から
の教育研究を進めます。

○地域性の重視

郷土の自然・文化への理解を
もって地域づくりや地域の共生
を担う人材を育成し、地域社会
に開かれた大学を目指します。

○人間性の涵養

豊かな人間性を培うために、学生
一人ひとりに対してきめ細やかな
教育を行い、学生同士が切磋琢
磨し学び合う環境をつくります。

■学部・学科構成

国際地域学部	国際地域学科	入学定員160名
人間生活学部	子ども学科	入学定員 40名
	健康栄養学科	入学定員 40名

授業・実習の紹介

▶新潟県立大学学生訪中

さる4月1日から5日まで、新潟県立大学訪中団(国際地域学部学生18名、教員3名)は、中国の中央社会主義学院のお招きを受け、北京を訪問しました。昨年11月、本学で開催された「新 日中友好21世紀委員会キャンパスセミナー」での学生4名の発表が中国側委員から評価されて実現した訪問です。天安門広場、人民大会堂、万里の長城の見学、首都師範大学での学生交流、北京外国語大学徐一平教授の講演、釣魚台国賓館での「21世紀委員会」中国側座長で元国務院委員の唐

家璇氏との懇親会等が行なわれました。帰国後、参加学生からは、「日本で報道される中国は、尖閣諸島問題や反日デモの話題が多く、少し怖いと思っていたが、中国の人達の暖かい歓迎や様々な文化に触れてすぐにそんな気持ちは無くなった」、「中国の学生達は日本の言語や文化に強い関心を抱いてくれていて、日本のドラマや音楽、アニメ、マンガ、ゲームに詳しい」、「中国で出会った友達とインターネットを通して連絡を取り合っている」、「京劇の力強い歌や優美な舞いは心に響いた」、



「自分の思い描いていた中国とは異なっていたことに驚き、自分の目で色々なことを確かめて、中国の様々な側面を知っていききたい」、「この素晴らしい経験を今後の学習へのモチベーションにし、日中友好の推進に生かしたい」等の感想が寄せられました。訪中の様子は中国のメディア『香港文匯報』(4月3日)、『人民日報』(4月4日)、『人民中国』5月号に掲載されました。

(国際地域学科 教授 後藤岩奈)

▶日露大学生交流 モニターツアー訪問記

今回のロシア極東訪問は、新潟空港発着によるロシア極東路線の活性化を図るため、新潟空港オンリーワン路線活性化実行委員会(会長:新潟県知事)が学生対象のツアーを企画し、新潟市内の複数の大学に参加を募り実現しました。訪問団の構成は本学からの9名の学生も含め、学生32名。そこに私は引率者の一員として同行しました。訪問期間は3月16日から22日までの7日間。ロシア極東訪問中は幸い好天に恵まれた

ものの、3月とはいえ厳寒の最中にあり、アムール川も一面凍結中でした。訪問の前半は本学との交流が深い国立太平洋大学を含むハバロフスク市内の4大学。その後シベリア鉄道で移動し、ウラジオストクでは4大学の学生交流プログラムをこなし、訪問先ではいずれも大歓迎を受けました。

滞在期間中は、本学の学生諸君も様々な学生交流行事や学生対話などに積極的に参加しました。ハバロフスク市内は洗練された街並みに変貌。ウラジオストックも来年のAPEC(アジア太平洋協力会議)開催に向けて、会場予定の

ルスキー島と市街地をつなぐ本格的な吊り橋や空港と市内をつなぐ道路整備が急ピッチで進められており、ロシアの意気込みも感じることができました。訪問学生の多くが帰国後も現地地で親交を深めたロシアの学生達とネットを通じた交流を継続していると聞きました。また訪問大学のどこでも訪問5日前に発生した東日本大震災に対する丁寧なお見舞いの言葉をいただき、一同は全員、感謝の念で一杯でした。参加学生には、将来、両国の架け橋になってほしいと願っています。

(国際地域学科 教授 若月章)

国際地域学科 教授

坂井 秀吉



Hideyoshi Sakai

グローバリゼーションと皆が言っている。しかし、そのそもグローバリゼーションとは何だろう？

それは私達を幸せにするのかそれとも不幸にするのか心配だ。

このような疑問や心配に応え、私達1人1人が幸せを目指すための考え方や方途を授業で学んでみませんか。

国際地域学科 講師

H.G. ブラウン



Howard Gordon Brown

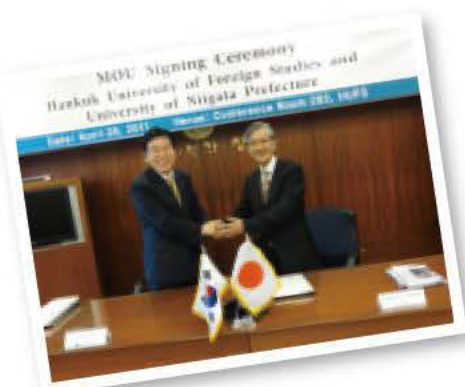
▶ 韓国外国語大学との協定締結

今年4月28日、ソウルにある韓国外国語大学と本学とのあいだに「教育・学術交流に関する協定」が結ばれました。本学からは猪口孝学長と若月章国際交流センター長が韓国外国語大学本館で行なわれた調印式に臨み、事務の加藤浩子さんと通訳の私も同行いたしました。写真は、調印を終えた朴哲学長と猪口学長がにこやかに握手をしているところです。このあと、本館最上階のレストランでなごやかな晩餐会が開かれました。

現在、本学の選択科目である「海外研

修B」を履修する学生たちは、この韓国外国語大学で短期の語学研修を行なっています。今後は長期留学をできるように交換留学制度を作っていく予定です。韓国外国語大学では42ヶ国の言語が教育されており、また韓国語を学ぶために世界各国の学生たちが留学してきています。彼らのために韓国語だけでなく英語でも講義が行なわれていますから、韓国語と英語の両方を学ぶことも可能です。

(国際地域学科 教授 波田野節子)



▶ 学内実習（給食経営管理）

学内実習は管理栄養士養成に必要な専門科目の一つで、3年前期に設定されています。この実習は給食の運営ができるようになることをめざしていますので、100食以上の大量調理をすべて学生達で行います。喫食の対象は健康栄養学科2・3年及び短大専攻科生、教職員で今年の食数は115食です。

まず、栄養計画を立て、食品構成を作り、いよいよ献立作成に入ります。すべてグループ作業ですが、6~7名の6班編成で、それぞれ栄養管理、作業管理、食材管理、衛生・安全管理、栄養教育、喫食者サービス等の栄養士業務を担当します。

実習は8:50にリーダーによる朝のミーティングから開始、主菜・副菜・汁物・ご飯・デザート・お茶の6品を作業管理が作成する作業工程表により調理作業が行われます。ほぼ11:30のでき上がりを目安にして作業をします。ちなみに第5回目のメニューは和風で、筑前煮、ごま和え、かき玉汁、玄米ご飯、夏色ゼリー、ほうじ茶です。1食の食材料費は350円です。毎回、テーブルにはメニューに関連した栄養教育のための教材を置き、食後のアンケートにも協力をいただいています。

(健康栄養学科 教授 荒井冨佐子)



I have been a teacher for over 20 years and in that time I have worked in Canada, Turkey and a few places here in Japan. I teach English for Academic Purposes, Business English and a Project English class about food security. I am also in charge of the English study abroad program in Canada. In my research,

my specialty is Applied Linguistics and I am very interested in motivation and the importance of role models. I am also very interested in faculty development, how good teachers become better teachers.

(これまで20年以上、カナダやトルコ、ここ日本の様々な地域で教壇に立ってきまし

た。アカデミックおよびビジネス英語や食糧保障に関するプロジェクトクラスなどを担当しています。また、カナダ語学研修プログラムの担当者でもあります。専門分野は、応用言語学で、モチベーションとロールモデルの重要性について研究をしています。ファカルティ・デベロップメントにも力を入れており、グッド・ティーチャーがベター・ティーチャーになるための研究をしています。)

授業・実習の紹介

▶ 応用栄養学実習

体育館の一角にスポーツウェア姿でケーブル線につながった特殊なマスクを着用して、緊張した面持ちでトレッドミル上にたたずむ学生。見守る測定スタッフの方々、そしてクラスメイト達の熱い(?)視線。いよいよレスピロモニター(呼吸代謝装置)によるエネルギー消費量の測定開始です(写真参照)。モニターにリアルタイムに表示される心拍数、呼吸数、酸素摂取(消費)量や二酸化炭素排出量など…。酸素摂取量からエネルギー消費量が推定できるのです。「百聞は一見にしかず」です。

本日の応用栄養学実習は、初めて海老ヶ瀬キャンパスを離れて新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター(サッカーの試合が行われる東北電力ビッグスワン内にあります)にやってきました。応用栄養学の領域は、「身体状況や食習慣に配慮して、健康維持・増進のために何をどのくらい食べたらよいのか」という栄養管理の基本に始まり、ライフステージ(乳児から高齢者まで)別栄養学、さらに健康づくりのための運動と栄養、私たちの生活する環境と栄養までと非常に広範囲です。

栄養管理において、エネルギー管理は基本中の基本です。1日当たりの摂取エネルギー量は、一般に食事調査から栄養計算して知ることができますが、1日当たりの消費エネルギー量を推定することは大変難しいのが現状です。成人であればエネルギー出納が±0、すなわち摂取エネルギー量と消費量のバランスがとれていれば、体重増加はありません。肥満は、摂取エネルギー量に比べて消費量が少ないことの結果なのです。

今回の実習では、残念ながら全員がエネルギー消費量の測定を体験することはできませんでした。「一度はやってみたい」という声が多数ありましたが、さまざまな制約のある環境の中、新潟県健康づくり・スポーツ医科学センターのセンター長始めスタッフの皆様方に大変お世話になりました。学生達が貴重な学習体験を今後の勉学に活かしてくれることと信じております。

(健康栄養学科 教授 渡邊令子)



国際地域学科 准教授

山田 佳子



Yoshiko Yamada

私をはじめ韓国を訪れた20数年前、その当時は「近くて遠い国」と言われ、韓国語を勉強していることを珍しがられたものです。その後、韓国の大学院で韓国の女性文学を学び、最近では南部にある木浦(モッポ)という都市で、ある作家の研究会の立ち上げに関わりました。毎年秋の行事には欠かさず足を運んでいるので市長さ

んをはじめ、地元の方とも知り合いになり、第二の故郷のようになりました。そんな地がお隣の国にあることはある意味で心の支えとなっています。

▶ 日本大学生訪韓研修団

国際地域学科3年 岩本さつき

2010年11月9日から18日までの10日間、日本大学生訪韓研修団の一員として韓国へ行ってきました。日韓の文化交流を強化し、相互理解や信頼関係を築くことを目的としたこの研修団には日本全国から選ばれた27名の大学生が参加しました。研修ではソウル市内の史跡見学、大学訪問での日韓学生懇談会、外交通商部(日本の外務省)による日韓関係ブリーフィ

ング、韓国伝統文化体験、ホームステイ、釜山でのディナークルーズなど、書ききれないほどたくさんの経験をし、とても充実した10日間となりました。仲良くなった韓国の学生たちやホームステイ先の家族とは、今年の夏にまた、2カ月間韓国で「語学短期留学」をするので、その際に再会する予定です。

今回の研修に参加し、ますます韓国と



いう国について関心をもつようになりました。これからも韓国の文化や歴史、言葉についてたくさん学んでいきたいと思います。

▶ 幼稚園教育実習で学んだこと

子ども学科3年 宮丸 邑

私は、6月6日から2週間にわたって新発田市立西園幼稚園で教育実習をしました。学外の幼稚園での実習は初めてであったため、最初はとても緊張しました。しかし、日が経つにつれ緊張もほぐれ、子どもたちとも仲良くなり、日誌や指導案等で苦勞することはありましたが、子どもたちの明るさのお陰で乗り越えることができました。先生方からも丁寧に指導していただき、大変充実した2週間となりました。

実習の中で特に私が苦勞したことは、「子どもと一緒に遊ぶ」ということで

す。子どもと遊ぶというと簡単なように思われるかもしれませんが、どうしたらその遊びがより楽しくなるか、どんなことがその遊びの面白さであるかを考えて言葉がけするなど、子どもの遊びを支援することが求められます。遊びを頭で考えて、傍で見ていただけでは、そうした面白さは見えてきません。先生方のご指導もあり、私自身が遊び仲間の一員となって子どもとかわる中で、その大切さを実感しました。

絵本や紙芝居を読んだ際の子どもの反応や、現場での先生方の姿など、



大学での授業では分からないことを、実際に現場に出てみることで多く学ぶことができました。また、社会人として必要な姿勢もこの実習を通して学ぶことが出来たと思います。就職を見据えて将来を考えていく上で、本当に貴重な経験となりました。

国際地域学科 准教授

小谷 一明



Kazuaki Odani

自己紹介が苦手です。どのような「私」になるかを楽しみにとっておきたいからでしょうか。大学ではアメリカや環境に関する文学の授業をしています。週末は自己を解き放ち、多様なテキストの森に入り込みます。そして森でさまよい、ことばが自分のなかに生まれ出ることを祈念します。キャンパスでは時間をかけて生まれたことばをなるべく使い、みなさ

んのことばと一緒に織りあげてタペストリーのような知の空間を作ることが私の夢です。

▶ 幼稚園教育実習に行っ

子ども学科 3年 渡邊 大輔

先日、新潟市内の私立幼稚園で2週間の教育実習に行ってきました。子ども学科に入学以来3度目の実習です。実習では学内では学べない多くのことを学ぶことができ、また、たくさん子どもたちと触れ合うことができ、とてもよい経験になったと感じています。

実習中は辛いこともありました、それが吹き飛んでしまうくらい楽しいこともたくさんありました。朝、子どもたちを出迎えると、みんな元気な声で「先生おはようございます!」とあいさつをしてくれて、まずこの

光景に接するだけで前日の疲れは忘れ、一日頑張ろうという気になりました。自由遊びの時間には、私の腕を引っ張り「先生、〇〇しようよ!」と日々いろいろな遊びに誘ってくれました。実習中、子どもたちとはよく鬼ごっこをしました。時には実習生が鬼になり、1人で15~20人ほどの子どもたちを捕まえる日もありました。子どもたちが必死になって逃げている姿がとても楽しそうで、私も本気になって追いかけて、心から楽しみました。

数回行われた部分実習(幼稚園教諭

の指導のもと、一日の保育の中の一部分を学生が担当する実習)では、担任の先生に見守られ、子どもたちには「先生、次は〇〇だよー」「先生、ピアノ間違えてもいいよー」など声をかけられながら、今の自分ができる精一杯の力を出し、保育者になったつもりで子どもたちの前に立ちました。学内での座学だけでなく現場での実践がいかに大事かということ、そして子どもたちと過ごす日々の楽しさを強く実感できた2週間となりました。



6

国際地域学科 准教授

関谷 浩史



Hiroshi Sekiya

鹿島建設時代、私は多くの建築設計や都市開発に携わり、建築の可能性と同時に限界を知ることになりました。悶々としていた当時「建築の3年はITの3日」といった知人の言葉がきっかけで、一大決心をして慶応大学環境情報学部 of 教員に転職し、建築とITの融合について研究してきました。そして幸いなことに昨年、これまでの研究をまとめる機会が得られNTT出版から「知能化都市」という著作

を出しました。

私の授業や研究室では、構想力の育成を目指し“つくったり考えたり”をモットーに、古町や佐渡といった文化性の高い地域をフィールドとして、東京大学の隈研吾研究室と連携し、地域活性化を目的としたワークショップを行っています。常に街に出て、様々な人と出会い、色々な体験をしてもらうことを心がけています。

県大生の 1日&1週間



■ 私の一週間

健康栄養学科 1年 塩沢 浩太

大学近くのアパートで一人暮らしをしています。新潟は実家の山奥とは違って太陽が昇るのが早いので、朝は早く起きてしまいます。お弁当を作り、掃除をした後、インターネット等を利用し授業の予習など朝の時間を有効に利用しています。

1年生は教養科目が多いけれど、いろんなことに興味があり、様々なことに手を出したいタイプですので、授業は取れるだけ取りました。「科学技術概論」や「社

会学」、「生命の世界」は新潟大学の先生が来て講義をしてくださいます。名前も内容もカタくてちょっと難しいですが、最新の研究の話題や、何よりも先生の情熱が伝わり、大学生になった感じが実感できとても楽しく毎日が充実しています。

健康栄養学科も英語の科目が豊富にあります。入学前は「国際的なものってやっぱり国際地域学科のひとつだけかな」と思っていました。しかし、WritingとSpeakingでは英語を「使う」ための勉強ができるし、Core Englishの今のテーマは「子どもの肥満」という健康栄養と子ども学科に関係した内容で、将来専門家（管理栄養士）としても使える英語になると思います。

今、健康栄養学科らしい科目は「調理学」と「おいさの科学」です。どちらも佐藤恵美子先生の講義で、2年次からの本格的な専門科目への導入科目で、基礎中の基礎の内容ですが、毎回佐藤先生の講義は楽しみです。

木曜日は授業が終わったら、国際地域学科教員主催のロシア映画やドラマの鑑賞会に参加しています。さらに金曜日は公務員サークルで公務員試験の勉強をしています。図書館が夜8時まで開館しているので、レポート作成や、栄養に関する本の読書に利用しています。最近イタリア料理に興味があり、それらの本を図書館で読んだ後、自宅に帰って料理に挑戦しています。

	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目
月	Writing	体育実技I	教育学概論	調理学	
火	科学技術概論	生活構造論	Speaking	生命の世界	
水	情報リテラシー	人間発達心理学	Core English	新潟県の経済と産業	
木	おいさの科学		人間生活学概論	国際学A	(鑑賞会)
金		Core English		社会学	(公務員さーくる)

国際地域学科 准教授

渡邊 理絵



Rie Watanabe

私は、ドイツと日本における気候変動政策形成過程の比較研究を通じて、どのようにして大規模な政策変化が起きるのか、そのメカニズムを明らかにする理論研究を行っています。2011年6月に、1998年から10年余の研究結果をまとめた博士論文の改定版を“Climate Policy Changes in Germany and Japan – A Path to Paradigmatic

Policy Change”という本にまとめて、英国のRoutledge社から出版しました。研究者、大学院生向けですので、学部のみなさんには難しいかもしれませんが、政策科学、政治学、比較政治学、気候変動問題に関心のある方は、ぜひトライしてみてください。趣味は、ヨガ、ピラティス、読書、オーガニック食品探検、登山など。



県大生の 1日&1週間



■ 私の一週間

子ども学科1年 真島美穂

子ども学科は、卒業と同時に保育士資格、幼稚園教諭免許、また、社会福祉士の国家試験受験資格を得ることができます。そのためには、必要な授業、

	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目
月	Writing	情報リテラシー	教育学概論	子どもの造形	
火	心理学	生活構造論	Speaking		
水	体育実技I	人間発達心理学	Core English		
木		幼児体育A	人間生活学概論	国際学A	
金		Core English	児童家庭福祉	社会学	

単位数をとる必要があります。私は、一週間に、必修の授業が11コマ、選択の授業が5コマ、計16コマの授業があります。選択の授業は、自分の好きな授業をとることができます。大学の授業は1コマ90分です。私は、自宅から電車を通っているの、一人暮らしの人よりも朝起きる時間は早く、帰る時間は遅くなってしまいます。その分、時間の使い方が大事になります。私は、授業の無い時間や電車までの時間、図書館やSALC (Self-Access Learning Center) に行き、課題をしたり英語の本を借り電車の中で読んでいます。最初は忙しさばかりを感じていましたが、慣れてくると余

裕が出て今では充実した日々を送っています。また、私はサークル活動にも参加しています。サークル活動では、先輩方や他校の人たちとも交流ができるのでとても楽しいし、色々な話が聞けて勉強になります。

私は、大学の良い所は、高校と違い自分の行動を自分で決めることができることだと思います。また、日々自分の夢に一步一步近づいているような気がしてとてもうれしいです。

国際地域学科 教授

若月章



Akira Wakatsuki

こんにちは。国際地域学部にも所属する若月です。現在、一部の担当授業以外は主として国際地域学部の学生諸君に国際関係論や北東アジア地域事情を教えています。最近の学生気質として、①海外に出たがらない、②リスクを負いたがらない、③新しい挑戦をしたがらない、などと言われていますね。しかし、わが大学の

学生諸君はそれとは違うということを、学内外での様々な活動を通じて発信してください。

Boys and Girls be ambitious!



僕の一週間

子ども学科 1年 藤原 聖

子ども学科で保育士、幼稚園教諭一種、社会福祉士の3つの資格取得を目指している私は、必修の科目が多いので結構大変ですが、専門的な授業が多い

のでとても楽しいです。自由な時間も多いため、好きなことをして過ごすことができます。たとえば私は3つのサークルに所属しているので、放課後や休日はサークル活動をする事が多いです。サークルの数が結構あるので、自分の好きなサークルにきっと出会えるのではないかと思います。

また、アパートを借りて一人暮らしをしているので、生活費のためにバイトもしています。バイトは週に2~3回のペースで勉強にさしつかえない範囲でしています。

このように、学校の勉強にサークル活動、バイトという結構忙しい生活を送って

いますが、とても充実感のある生活に感じられて満足しています。2年次から幼稚園や保育園での実習が始まるので、いまからワクワクしています。この大学で過ごす時間を大切にして実りあるものにしていきたいです。



	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目
月	Writing	情報リテラシー	教育学概論	子どもの造形	
火	心理学	生活構造論	Speaking	生命の世界	
水	体育実技I	人間発達心理学	Core English		
木		幼児体育A	人間生活学概論	新潟県の子育て子ども家庭福祉	Basic English
金		Core English	児童家庭福祉	哲学入門	

子ども学科 准教授

石井 玲子



Reiko Ishii

私の専門は音楽(ピアノ)で、「ピアノ」「西洋音楽」「子どもの音楽」等の授業を担当しています。関西人の私ですが、新潟に来る前は米国で長期間生活し、ロシアやオーストリアにも短期間滞在する機会があり、日本という国や社会を客観的に見るようになりました。そして、他人を気にせず、自分らしい生き方をしたいと強く思うようになりました。今は、自分が最も好きな音楽の分野

で、一つのことを深く掘り下げて追究することに幸せを感じながら、日々暮らしています。

学生生活の中で皆さんも、今自分は何をしたいのか、どのように生きていきたいのかを考えて、誰かが敷いたレールに乗った人生ではなく、レールから外れて回り道する勇氣を持って、自分らしく自由に生きてください。



県大生の 1日&1週間



■ 私の一週間

国際地域学科1年 県大太郎(仮名)

国際地域学科は、英語を中心に、様々な分野の学問を学ぶことができ、将来の選択肢の幅が広がります。私は一週間に15コマの授業があり、1つの授

	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目
月		Writing		ミクロ 経済学入門	
火	心理学	Speaking	Effective Learning I		
水	Core English				政治学入門
木	体育	国際地域学A	情報リテラシー	国際学A	
金	Core English	Lecture	文章作成技法	社会学	

業は90分です。必修科目の英語6コマと、その他の必修科目6コマの他に自分の好きな授業をとることが出来ます。高校とは違い、自分の好きな授業をとることが出来るので、充実した大学生活を送ることができます。また、高校生活のように毎時間授業があるわけではないので、空いた時間に自分の好きなことをすることができます。私はよくSALC (Self-Access Learning Center)で英語の本やDVD、韓国語・中国語・ロシア語等の文献を見たり、メンターの方と英語で話しています。私たちの英語の上達を手助けしてくれるメンターの方と英語で会話することで、自然と英語の力が上がっているように感じます。また新潟県

立大学は勉強だけでなく、サークル活動にも力を入れています。他大学の留学生の方と交流する機会もあり、私はこの間留学生とのスポーツ大会に参加して異文化に触れて来ました。

このように大学生活は、自分のやりたいことを優先して活動できるので、とても充実しています。自分の意識次第で大学生活は変わるのでとても楽しいです。

子ども学科 准教授

梅田 優子



Yuko Umeda

私の専門領域は保育学です。

「幼稚園や保育園の先生って、子ども達と遊ぶのが仕事で楽しそう……」という声を聞くことがあります。もちろん楽しく遊ぶのは保育者の大事な仕事です。なぜなら、子ども達は遊びの中で、人とかかわったり、ものごとに真剣に取り組んだりして、様々なことを学んでいくからです。でもそれは保育者によって、遊びの中で子どもが意味ある体験を重ねていけるよう、

計画が作成され、保育の環境が整えられ、援助が展開されることで可能となります。ですから、楽しく遊ぶことは保育者としての第一歩であり、共に遊びながら子どもの発達の課題を探り「生きる力」の基礎を培う専門家としての高い力量が求められます。そんな保育者になりたい!との思いをもつ皆さんと一緒に、よりよい保育のあり方について考えていきたいと思っています。



■ 私の一週間

国際地域学科1年 海老ヶ瀬花子(仮名)

自宅生である私は朝7:30に起床します。大学は授業開始が少し遅いのでゆっくりできます。1時限目の開始時間は8:50です。

	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目
月	情報	Writing		ミクロ経済学	
火	心理学	体育実技	Speaking		
水	Core English				政治学入門
木	Effective Learning I	国際地域学A		国際学A	Basic English
金	Core English	Lecture	文章作成技法	哲学入門	

例えば火曜日。火曜日は1時限目の心理学から始まります。心理学はいくつかの視点から人間の心理を学ぶ学問です。この講義はただ聞いているだけの講義ではなく、実際に学生自身がそのトピックについて考えたり、積極的に参加したりできる授業です。

心理学が終わった後は15分の休憩をはさんで体育実技があります。第一 Semester(1年前期)では全員硬式テニスを行います。基礎から始めるので初心者でも安心です。先生はとても気さくな方なのでみんな楽しく授業に参加できます。

テニスで汗を流した後、昼休みとなりますが、各々学食でランチを頼んだり、自分で作ってきたお弁当を食べたりして、みんなで思い思いの時間を過ごしています。

この昼休みは12:05~13:00までで13:00からは3時限目が始まります。3時限目はSpeakingで、英語でスピーチをしたり、ディスカッションをしたりする力を養う授業です。ネイティブの先生の授業なので、生きた英語を学べます。

この授業が終わった後はサークル活動に行きます。私は韓国サークルに所属しているのですが、韓国サークルではK-POPダンスをしたり、韓国の伝統楽器のチャングという太鼓の練習をしたり、様々な活動があってとても楽しいです。

大学は授業が長いものの、学ぶことがたくさんあるし、友達もたくさんできて、充実した毎日が送れるのでとても楽しいですよ!

子ども学科 准教授

斉藤美和子



Miwako Saito

「のだめカンタービレ」で、オーケストラ演奏中にチェロを回したり、管楽器やヴァイオリンの向きを切れ味よく変えるシーンがありました。しかしそれ以上のノリで非常にハイレベルな演奏をするオーケストラがあります。それはベネズエラのユースオーケストラです。この国は石油大国ですが、貧困、麻薬犯罪、暴力などの社会問題を抱えています。その状況の中、国を挙げて「エル・システム」という制度を

作り無料で音楽教育を保障しているのです。音楽に犯罪を防ぐ力があるかどうかはわかりませんが、発足して35~6年が経つこのエル・システムで学んだ30万人の中で犯罪に走った人は一人もいないとのこと。

音楽にはどんな力があるのでしょうか。「エル・システム」「シモン・ボリバル・ユースオーケストラ・オブ・ベネズエラ」……どうかググってみてください。

活動報告

連花祭 (学生自治会)

学生自治会長 齊藤恵子



学生自治会は、全学生による自治組織です。新潟県立大学が開学してから、学生たちで力をあわせて、1年目の冬に設立されました。自治会活動も開学にあわせて3年目になります。昨年の活動を振り返ってみると、行事の開催と共にたくさんの思い出が詰まった年となりました。

10月には、新潟県立大学としては初めての大学祭「連花祭」を開催しました。企画から運営まで学生たちの力で実施しました。「地域と楽しむ」をコンセプトに、模擬店、抽選会、大学紹介など多種多様な出し物を学生たちが考え用意しました。新潟アイドル「Negicco」をゲストに呼んで、クイズ大会も催しました。ふだんはできない

学生と地域の方との触れあいがたくさんみられ、地域で楽しむことができたと思います。

そして今年、新1年生が入学し学生数が増えて臨んだ体育祭。5月20日、体育祭当日は見事な快晴でした。参加者も増え、それぞれの学科・コースに分かれて大いに盛り上がりました。種目は綱引きやパン食い競争、30人31脚など7種目を行いました。特にリレーやバレーボールは競技者と観戦者が一体となり、グラウンドや体育館は体育祭独特の熱気に包まれました。来年はいよいよ1年生から4年生が初めて揃う年となるので私たちの期待もますます膨らんでいます。

このように新潟県立大学は少しずつ

大きな根をはっています。現在は10月に開催される第2輪「連花祭」に向けて企画、準備をしている最中です。学生と地域の方が一体となって盛り上がり、昨年より多くの方に参加していただける大学祭にしたいと思っています。みなさんお待ちしております。



子ども学科 教授
齋藤 裕



Yutaka Saito

私は、子どもの頃から、ウルトラマンが大好きである。一番印象的な物語は「ジャミラ」という怪獣が出てくるものであった。ジャミラは、元々は宇宙飛行士で事故に遭うのだが、母国は国際批判を恐れて事実を隠蔽し彼を見捨てるのである。結果、彼は体が変異し、怪獣の姿になって復讐のために地球に帰ってくる。ジャミラは、ウルトラマンの攻撃に絶命す

るが、埋葬されたジャミラの墓標は「人類の夢と科学の発展のために死んだ戦士の魂、ここに眠る」であった。これを目の前にし隊員のひとりが「偽善者はいつもこうだ、言葉だけは美しいけれど……」と言って回が終わる。

私は、ウルトラマンを通して、人間のエゴイズムについて学んだのである。



mash#potato (アカペラサークル)

子ども学科2年 加藤郁恵

みなさんこんにちは。アカペラサークル mash#potatoです。わたしたちはサークルを結成して2年目に突入し、新入生を含めて40人で活動しています。そんなわたしたちは7月に2つのライブに出演させていただきました。7月10日

は古町に移設した中央区社会福祉協議会のオープニングイベント、7月16日はふるさと村のアカペライベントです。10日のライブには1、2、3年生合同のグループ「ぼたーじゅ」が出演し、たくさんのお客様の前で緊張しましたが、とても楽しいライブになりました。16日は3年生グループ「ピカソ」が出演し、プロのアカペラグループの方とも共演し、とても良い刺激になりました。夏休みにはライブハウスCLUB RIVERSTでのライブや新潟市北区の龍神祭などたくさんさんのライブに出演させていただく予定です。もちろん10月の連花祭で

もライブをします。ライブにたくさん出演することで改善点はもちろんですが、長所についても見つめ直し、さらに成長していきたいと考えています。学内外問わず今後もアカペラサークル mash#potatoの活動に注目してください。



学習支援 ボランティアに 参加して

健康栄養学科2年 岡田知佳

私たち健康栄養学科2年生の希望者は、昨年度12月中旬から3月下旬まで、学習支援ボランティアとして隣の大形小学校に行きました。算数、理科、体育の授業で学習支援を行いました。担任の先生方が授業をしているなかで、問題が解けない児童と一緒に問題を解いたり、テストの丸つけをしたりしました。児童が理解しやすいように教えることが想

像以上に難しく、教えることの大変さを実感しました。しかし、何回か通ううちに、児童とコミュニケーションが上手にとれるようになり、教え方のコツも得て、最終的には楽しみながら担任の先生のサポートができました。また、児童と一緒に給食を食べる機会もありました。驚いたことには、高学年の児童が考えた献立が実際に給食として提供されていたことです。献立を考えた児童が、給食時の放送でそのメニューについて説明していました。児童ひとりひとりが食事や栄養について考えるのに、とても良い取り組みだと感じました。さらに、調理師の紹介や栄養素の説明などのポスターが貼ってありました。このように、大学の講義を

聴講しているだけではわからない、実際に小学校で行われている食に関する指導に触れることができました。小学生が見たり聞いたりしても、興味を持って、理解しやすい方法で食に関する指導をすることが大切だと知りました。

勉強を教えることだけでなく、子どもとのコミュニケーションのとり方や、わかりやすい食の指導の実際など、たくさんのが学べ、とても貴重な経験となりました。この経験を将来に役立てていこうと思います。

健康栄養学科 教授
渡邊令子



Reiko Watanabe

日本人の食の原点である「米」が、肉類、魚介類に次いで第3のタンパク質供給源になっていることは知っていますか?意外に思われる人が多いことでしょう。この「米タンパク質」の未知の栄養生理機能を探求・解明することが、私の研究テーマの一つです。他大学や企業の研究者達との連携で着実に成果が見えつつあります。

専門分野を一言で表現すれば「栄養科学」。管理栄養士を目指す学生達に、栄養学の基礎から応用まで、講義、実験・実習を通して、広範囲でかつ奥深い「栄養科学」の世界への誘いができれば幸いです。

活動報告

学校での“楽しみ” 見つけました (緑化サークル)

子ども学科3年 伊藤可奈恵

私、ただ今大学3年生です。1年生の時にサークル活動とアルバイト、2年生から学外でのボランティア活動など、学業以外にも様々なことをしてきました。その中でボランティアは続けられているものの、サークルの活動やアルバイトは毎日の活動ではありませんでしたが、なかなか学業と両立して続けられるほど楽しいと感じる事ができませんでした。

しかし、3年生の5月になってからの事です。ふと、荒れたままの花壇が目にとまりました。そこで、ボランティアでお世話になっている先生と相談して花壇の整備を始める事にしました。

最初の頃は先生と予定を合わせて、近くにあるホームセンターまで花の苗や種、必要な道具を買いに行ったりしました。草をむしって、放置されて荒れたプラ

ンターを耕して、買った苗や種を植えて、一か月経つころには殺風景だった花壇がなんとなく賑やかになりました。その頃になると、花壇の近くの玄関を利用する先生方が気づいて声をかけてくれたり、中には苗を提供してくれる先生もいらっしゃいました。休日など、花の世話に行ってもやれないときもありますが、助けて下さる先生もいて、花壇を中心にいろんな方に



支えてもらっている事を実感しています。花壇の活動を通して周りの人との繋がりをを感じる事が出来るようになったし、花について自然と勉強する機会も増えました。「世話に行かなくちゃ」というプレッシャーはありますが、何より花に頼られている気がしてとても充実の毎日です。現在、サークル化に向けて準備中です。



健康栄養学科 講師

曾根 英行



Hideyuki Sone

赴任して5年、漸く鉛色の冬空にも慣れ、少しは新潟人らしくなってきたかと思っています。

さて、私はこれまで一貫して糖尿病の研究に携わってきました。最近では、胎生期の栄養状態が出生後の糖尿病発症を左右すると言われています。結局のところ胎児期から老年期、何処のステージ

においても適切な栄養摂取が重要なようです。案外「旬なものを美味しく頂く」これが最善の健康法なのかもしれません。

四季を通じて豊かな食に恵まれた新潟を余すことなく食欲に満喫してはいかがでしょうか。

ただいま 部員募集中! (茶道部)

健康栄養学科2年 長谷部明喜



私たち新潟県立大学茶道部は、新潟ではおなじみの石州流の中の怡溪(いけい)派です。前身である県短開学当初から続く伝統ある部活です。

主に毎週水・木・金の部員の都合が良い日に行っています。学外のお稽古では、古町の先生のお稽古場に伺い、指導を受けています。また学校のお茶室でも活動し、時々お茶を飲み、お菓子を食べ、会話を楽しみながら和気あいあいと過ごしています。

部員のほとんどが未経験者です。日本の伝統でもある茶道をやってみたくけれど、敷居が高くてなかなか手が出せない……なんて思っている方もいらっしゃるかと思います。私もそんな一人でした。今年で入部一年目になりますが、先生方、先輩方のご指導のおかげで、気がつけば通し稽古ができるようになりました。

6月には、『沼垂ならねフェスタ』に参加し、フェスタに来てくださる方々に浴衣を着てお茶を振る舞っています。地域の方々との交流もでき、皆さんの気さくにあまり緊張せず、気軽に、とても楽しく参

加させていただきます。

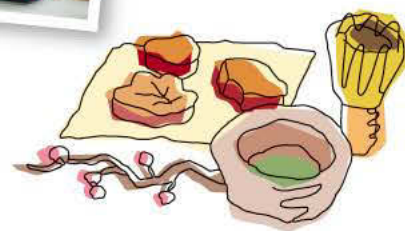
10月の大学祭では、お茶とお菓子を振る舞います。どなたでも気軽に体験できるので、この機会に体験してみませんか？

11月の学生茶会では、市内の大学茶道部が集結し、お茶会を開催します。日頃のお稽古の集大成ということもあり、一年で最も気が引き締まる思いで臨んでいます。同じ流派のお点前を拝見する

ことで、とても勉強になります。また異なる流派の方々もいらっしゃるの、違いを学ぶのもまた楽しみの1つです。

今後、長期休暇には茶道にちなんだイベントを企画中です。

最後になりましたが、ただいま部員募集中です。学内のポスターも参考にしてみてください。少しでも興味がある方は是非ぜひ遊びに来てみてください。



健康栄養学科 助教

永野 忠 聖



Tadasato Nagano

本学の開学とともに着任いたしました。出身は新潟市で、新潟大学で学位を取得したのち、紆余曲折を経まして今日に至っております。

本年3月、未曾有の震災が発生しました。子どものころに想像した未来とは異なり、自然災害、大事故にさいなまれる光景が21世紀になり10年余りを経た現実の光景で

す。次代を担う人たちはもう少しうまくやってくれると願いながら、教育研究の一助になりたいと思う毎日です。

新潟の旬を 満喫しましょー！

旬の食材を食べると、季節の過ごし方が違って来るかもしれません。

夏といえば……

今年の夏は、とても暑かったですね。新潟の夏といえば、枝豆！新潟は、枝豆の作付面積日本一を毎年競っています。でも新潟県民は、年間購入量も日本一。つまり、作った枝豆の多くを自分たちで消費してしまうのです。これこそ地産地消ですね。

夏バテ防止に枝豆！

ところで、この枝豆、ビタミンが豊富で糖質をエネルギー源に変えてくれる優れたもの。夏バテから身体を守ってくれます。このように、旬の食べ物を食べることには、大きな意義があります。

新潟は春夏秋冬の食べ物が豊富！

その他にも、新潟には旬の食べ物がそろっています。

春には山菜などの苦い食べ物が出回ります。これには、春の陽気からくるのぼせを防ぐ効果があります。夏にはキュウリ、ナス、トマトなど水分の多い野菜を食べることで身体の熱をとり、熱中症や夏バテを防ぐことができます。秋に脂質の多い種実類や魚を食べることで、冬の寒さに備え、冬に多く出回る根菜類が、身体を温めてくれます。

今ではスーパーなどの売り場を見ると、一年中同じ食べ物が並んでいることがあります。いつでも欲しいものが手に入るのは一見豊かに感じられますが、最も栄養価が高い時に、身体が欲しているものを選んで食べてみると、季節の過ごし方が違って来るかもしれません。

(N-Food 滝澤・木村)



1月 ● とう菜、ヤリイカ

2月 ● いちご(越後姫)

3月 ● 雪下にんじん

4月 ● サクラマス

5月 ● アスパラガス、トマト

6月 ● そらまめ

7月 ● なす、メロン

8月 ● 枝豆、桃、ぶどう

9月 ● 日本なし、ノドグロ

10月 ● さといも、ねぎ、かきのもと(食用菊)、柿

11月 ● 大根、南蛮エビ

12月 ● ルレクチエ、ブリ、サケ





私の暮らし

子ども学科1年 細谷遙香

私は、子ども学科に在籍していて、一人暮らしをしています。大学生協からのアパート情報と、インターネットで調べたものの両方を参考にして、アパートを決めました。家賃は月4万円です。学校から徒歩で20分、自転車で10分くらいなので、通学しやすい場所にあると思います。アパートの近くには、スーパー、薬局、病院、衣料品店、食堂など、様々なお店があります。どのお店も歩いて行ける距離にあ

るので、買い物をするのにとっても便利です。友達からスーパーの情報を聞いて、買い物のときの参考にしています。

最初、私に一人暮らしをすることができるのか、とても不安で仕方ありませんでした。しかし慣れてくると、だんだんと楽しいと感じるようになってきました。アパートに友達を呼んで一緒にご飯を食べることもできるし、自分の時間もたくさんあるので、充実した毎日を送ることができます。一人暮らしをしている新潟県立大学の学生も近くにたくさんいるので安心です。家事は全て自分でやらなければなり

ません。大変ですが、自分のためにもなるし、時間の使い方も上手になると思うので、楽しみながらやっています。



大学周辺情報あれこれ

子ども学科1年 本田光佑

▶アパート情報!

新潟県立大学に通う学生の家賃は約3万~4.5万円程で、間取りは1Kから2DKまでさまざまです。最も一般的なのは6~10帖の1Kの部屋です。大学への距離は近い人だと徒歩数分ですが、自転車

で30分以上かかる人もいます。「広くて安い」や「とにかく近い」など、いい部屋はすぐになくなってしまいますので、合格したら早く部屋探しを始めることをおすすめします。

▶県立大周辺情報!

新潟県立大学の周辺にはチャレンジャーやイオンなどのスーパーやデパートがあり、授業の終わりに買い物を済ませながら帰るのにとっても便利です。飲食店

も多く軒を連ねているので、いざというときに頼りになります。たくさんのお店がある分アルバイトも見つけやすいです。

▶最後に!

新潟県立大学で一人暮らしを始める方に言っておきたいことがあります。ぜひ自転車を手に入れてください。あるとなにかと便利です……というか、ないと不便です(笑)。

大学内での生活

大学生は、勉学中心の生活をしますが、勉学するには日常生活も必要ですね。新潟県立大学生協では、もちろんこの2つの生活をサポートします。

売店(書籍購買店)は、教科書・参考書や各種教材、ノート・筆記具などの文房具の販売から、お菓子・飲料・おにぎり・パンなど飲食物の販売、また自動車教習所の申込受付や各種検

定試験受付、JRチケット手配等のプレイガイド機能など、学生の"生活"を支えるなんでも屋さんです。

食堂では、麺類・丼物の他に、好みのおかずやサラダ類・惣菜等を、好きな分量だけ摂って、その分量によって会計するビュッフェ形式での、バラエティに富んだ食事もできます。

お昼の休み時間中は、いつもたくさんの学生が食堂を利用します。食堂のメニューで大学生に人気なのは、麺類や丼物です。ラーメンやうどん・そば、

カレーなどはいつも閉店時間前に売り切れるほどです。皆さんも一度食べてみてください。



国際家族の サポートネットワーク in新潟

子ども学科 講師 角張慶子

国際地域学科・子ども学科の教員4名でスタートした「国際家族のサポートネットワークin新潟」の活動が3年目を迎えました。新潟在住の国際家族(国際結婚・海外からの転居等の家族)同士が交流を持てるように1回程度交流会を開催しています。

また、昨年から、国際家族のみならず、国際交流や多文化に興味を持つ近隣地域の家族を対象に英語に触れたり交流をしたりする“ストーリータイム”という会も行っています。

7月10日(日)には、今年度第1回の

“ストーリータイム”を行いました。1～7歳の子ども21名とその保護者が参加し、“夏”をテーマにした絵本を英語で聞いた後、製作をして楽しみました。内容は国際地域・子ども両学科の学生ボランティア9名が考えたものです。日本で暮らす国際家族が増加している現在、国際地域学科の学生はもちろんのこと、将来保育の現場を目指す子ども学科の学生にとっても、参加者との交流を通していろいろなことを学び感じることでできる機会になっています。また、学科を超えて学生同士がお互いの専門である“国際”“子ども”について学び合う機会にもなっています。参加した学生からは「(他学科の学生と一緒に企画しているいろいろ教えてもらい楽しかった)」との声が聞かれました。両学科の

ある新潟県立大学ならではの活動です。

なお、今後も国際家族の交流会はもちろんのこと、秋・冬にも“ストーリータイム”を開催予定です。地域の皆様今後どうぞご期待ください!



地域との つながりのなかで — 学習支援の取り組み —

子ども学科 講師 小澤 薫

新潟県立大学が開学して3年目になり、地域から学生に対していろいろな要望が寄せられるようになってきました。地域のイベントに企画から加わったり、サークルがイベントに参加して歌や演奏をしたり、と個々の要望に応じて学生たちが地域とのつながりのなかで活動をしています。その中の一つに、中学生に対する学習支援があります。中学生への学習支援といっても、学力の向上、学習の補助、学習習慣支援の定着など、目的はさまざまです。震災の際の避難所においても、

短期間でしたが、新潟に避難してきていた小学生、中学生、高校生の学習に学生が寄り添いました。そのなかで新潟県立大学子ども学科では、新潟市東区と連携して、低所得世帯の中学生を対象とした「中学生勉強会」を昨年の12月から行っています。週に1回、中学生が自主学習できる場を提供して、大学生がサポーターとして中学生を見守り、中学生のしたい科目を、ときに教え、ときに一緒に考えています。この場所では、勉強だけでなく、さまざまな交流がはかられています。中学生、大学生がともに、「中学生勉強会」の活動の意義を踏まえて、まじめに楽しく触れ合っています。参加している大学生からは、「教えることよりも、教えられ

ることが多い」という声もきかれています。今年の6月からは新しい中学生が加わり、参加中学生は全体で30名を超えています。新しい生徒を迎えるウェルカムパーティには、3月まで参加していて高校に進学した生徒も顔を出してくれました。大学では、継続的な取り組みにしていきたいと思っています。地域とのつながりを大切にしている本学の取り組みと一緒に参加していきましょう。





ドーム型が印象的な閲覧室は
デザインや配色を重視した
おしゃれな空間です。



図書館は 情報の宝庫 です。



専門書を中心に
10万冊近くの図書があり、
このうち18,000冊が外国語図書です。特
に、ロシア語、中国語、韓国語資料が揃って
DVD、ビデオもあります。
コンピュータで図書館資料の検索だけでなく、
新聞記事や外国語も含めた雑誌記事の検索が
できます。

教員の論文は
リポジトリに
登録しています。

いつでも、どこでも、誰でも
無料で論文を読むことができます。

新潟の女子短大生の方言
-自動車学校・そろそろ・
ナマラ-
国際地域学科 福嶋教授

女子大生の
理想体型に関する研究
子ども学科 伊藤准教授

新潟の郷土食
「のっぺい」に関する
女子短大生の
アンケート結果からの一考察
健康栄養学科 佐藤教授・筒井助教

椎名林檎における
「歌」の解体と再生
国際地域学科 石川教授



イベント一覧(サテライト)

新潟県立大学 政策研究センターシンポジウム

新潟県立大学政策研究センターシンポジウム「北東アジアの現在と未来 新潟の進むべき道」を2010年11月6日、ANAクラウンプラザホテル新潟で開催しました。我が国を代表する韓国(朝鮮半島)、中国及びロシア問題の権威である3人の研究者、在新潟の3カ国の総領事、そして泉田裕彦新潟県知事が一堂に会し、目まぐるしい変化を見せる北東アジアの「現在」と「未来」、そしてその中で「新潟」が進むべき方向について議論を深めました。



ASEAN・ バロメータープロジェクト

2011年5月11日、東京大学山上会館において、「東南アジア諸国連合世論調査研究会議」を開催しました。2009年度のASEAN・バロメータープロジェクトで実施した世論調査結果を踏まえた学術会議であり、国内より研究者を招聘し、討論・発表を行いました。新潟県立大学からの研究者も多数参加しており、猪口学長も参加しました。



AsiaBarometer Workshopの開催

2009年度、2010年度に引き続き2011年6月30日に東京大学山上会館において、「AsiaBarometer Workshop 2011 アジア社会資本の探求—アジアの社会資本の世論調査データを通じた研究を多角的視点から深く分析する—」を開催しました。新潟県立大学を含め、国内外よりそれぞれの分野での第一人者である研究者を招聘し、発表・討論を行いました。



20

平成23年度公開講座

「新潟で東日本大震災を受け止める」

本学では、今年度の公開講座を下記4回シリーズで開催を予定しております。

第1回

10月2日(日)13:30-16:00
新潟市東区プラザホール
「新潟から危機管理を再考する」

第3回

10月29日(土)13:30-16:00
新潟県立大学1313講義室
「災害文化を継承する」

第2回

10月19日(水)15:00~17:00
新潟県立大学1313講義室
「新潟で核問題を考える」

第4回

11月19日(土)13:30-16:00
新潟県立大学1313講義室
「南相馬市からの被災地「子ども支援」の報告」

東日本を襲った大震災。翌日は十日町・津南・上越でも大きな被害がありました。

近年2度の震災の経験を持つ新潟県では、いち早く被災者の支援を表明し、全国で最多となる人数を受け入れました。また、原子力発電所が立地している柏崎・刈羽では、普段から交流のある

福島第一発電所付近からの避難者を受け入れました。

今回の公開講座は、地域に学習機会を提供するだけでなく、地域と災害・復興という新潟の経験を今後の震災復興にいかすべく情報発信していこうという試みでもあります。

皆様方の聴講をお待ちしております。

申込・問合せ先:新潟県立大学地域連携センター TEL/025-368-8373 ■E-mail/unpreco@unii.ac.jp

『広報誌第5号 来て 見て 海老ヶ瀬!!』はいかがだったでしょうか。頁数を含む全面的なパワーアップを図りました。従前よりも発行日が遅くなりましたが、今日、皆さんにお届けできることになりました。表紙の貼り絵は、県立新潟女子短期大学国際教養学科を2009年に卒業した神子由加理さん・野本桜実さんの作品です。文中の「来て 見て 海老ヶ瀬!!」のイラスト3点は新潟県立大学子ども学科3年生の宮嶋知絵さんに描いていただきました。ありがとうございました。

■連絡先

新潟県立大学

〒950-8680
新潟市東区海老ヶ瀬471番地
TEL:025-270-1300
FAX:025-270-5173
E-mail:unp@unii.ac.jp

新潟県立大学 東京サテライト

〒113-0024
東京都文京区西片1丁目17番8号 KSビル9階
TEL:03-5803-6955
FAX:03-5803-6971
E-mail:unptokyo@unii.ac.jp

編集
後記